

尹奉吉義挙 85 周年にあたって

勝村 誠
(立命館大学)

1932年4月29日、昭和天皇の誕生日を祝賀する「天長節祝賀会」が中国・上海の虹口公園で開催された。当日この会場に入場していた当時満24歳だった朝鮮人青年・尹奉吉は、日本の要人が並ぶ式壇に爆弾を投擲し、陸軍上海派遣軍司令官の白川義則大将に重傷を負わす（その後、5月23日に死亡）などの死傷者を生じせしめた。この事件については、韓国では「尹奉吉義挙」と呼ばれ、尹奉吉は「抗日義士」、すなわち英雄として讃えられている。一方、日本では一般に「上海天長節爆弾事件」と呼ばれ、論者によって様々に評価は分かれるものの、テロリスト尹奉吉による凶悪犯罪であると見なすことが多い。

伊藤博文を射殺した安重根は「英雄」なのか「テロリスト」なのかが、東アジアの歴史認識をめぐる論点としてしばしば浮上する。尹奉吉義挙についてもこれと同様である。このように評価が分かれる背景には、あえて単純化して言うと、近代日本の一連の対外拡張政策を「軍事力を背景とした帝国主義的侵略」と判断するか、あくまでも「国際法に則った合法的な対外行動」であったと見るかの違いがある。

日本は日清戦争（1894年7月～1895年4月）を契機として朝鮮半島に陸軍韓国駐軍を駐留させ、朝鮮を軍事的に支配しながら植民地化を進めたが、これに対して朝鮮社会においてはたびたび民族的抵抗が起きた。1895年10月に明成皇后（閔妃）を殺害した乙未事変と、同年12月に発令された断髮令に対し、反発を強めた朝鮮の儒生たちやそれに呼応した民衆は、義兵を組織して挙兵し、朝鮮各地で日本軍に戦闘を挑み、その運動は1896年3月には朝鮮半島全域に拡大した。

また、日本は日露戦争（1904年2月～1905年9月）開戦直後の1904年2月23日に大韓帝国と日韓議定書を結び、朝鮮半島における軍事行動の自由を確保したが、朝鮮半島における日露間の戦闘がほぼ終結し、実質的に日本による軍事占領状態に至ると、8月22日に第一次日韓協約を締結して、韓国政府に日本政府の推薦による財務顧問（日本人）と外交顧問（外国人）を任命するよう押しつけた。日本による大韓帝国の保護国化の第一歩であったが、これに対しても1905年春から国権回復のために義兵が再起した。

日露戦争後、日本は1905年11月18日に第二次日韓協約により大韓帝国の外交権を奪い、1907年7月24日には第三次日韓協約により高級官吏の任免権を掌握、さらに韓国軍を解散させる措置をとった。これに対し、儒生を中心とする義兵に加えて解散させられた韓国軍兵士も合流して、全国的に激しい義兵闘争が繰り広げられたが、日本は軍隊を増派・増強するとともに、憲兵警察網を張り巡らせてこれを鎮圧した。

さて、この一連の過程を朝鮮半島の側から見るならば、一連の抗日義兵闘争は国権が奪われていく民族が独立回復を目指した「独立戦争」であったのだと理解される。1909年10月26日に伊藤博文を射殺した安重根も、大韓義軍の参謀中將として、戦闘行動として伊藤博文を銃撃したのでであると主張した。

その翌年の1910年8月29日に断行された「韓国併合」を、日本と大韓帝国が独立国同士の合意によって合法的に合併したと見る立場との隔たりは、なんと著しく大きいものか。

さらに、1919年3月1日から朝鮮半島全域で繰り広げられた三・一独立運動の評価についても、韓国においては、その当時すでに人類の普遍的価値として承認されつつあった民族自決主義に立脚し日本の植民地支配からの独立を目指した正当な民族的独立運動であったとみなされる。同年4月には上海で大韓民国臨時政府が樹立宣言されたが、韓国の現行憲法には「大韓国民は三・一運動で成立した大韓民国臨時政府の法統」と「四・一九民主理念」を継承すると書かれており、大韓民国臨時政府をいまの大韓民国の前身と位置づけている。

したがって、1932年の尹奉吉義挙は、事件当時に大韓民国臨時政府主席であった金九の独立運動戦略に共鳴し命と引き換えに挙行された愛國的独立運動、すなわち義挙であるとみなされる。しかしながら、日本ではテロリストによる爆弾事件とされる。このような歴史認識のギャップは、近年見られるように、ともすると政治外交的な葛藤や対立の火種となる。しかしそれは、東アジアにおける相互理解を著しく阻害する。私は、そのような歴史認識のギャップを「埋められないもの」と見なす立場とはとらない。歴史認識の共有など不可能だと簡単にあきらめるのではなく、相互に自国中心的な歴史認識を乗り越え、東アジアの「公共の歴史の記憶」を紡ぐことにより、国境を超える相互理解を促進していくべきだと思う。

ところで、立命館大学コリア研究センターは、2005年6月の設立以来、①朝鮮半島の平和的統一に向けた国際関係と安全保障、②朝鮮半島を焦点とする東アジア歴史認識問題、③韓国民主主義の到達点と課題、④世界に拡散する在外コリアンをめぐる諸問題、⑤日本と朝鮮半島および隣接する東アジアの地域経済の5つを柱としてプロジェクト研究を進めてきた。本センターにとって、②の課題は設立以来追究してきた核心的課題であると言える。そして、この研究プロジェクトを推進するために、本センターは2013年に独立記念館韓国独立運動史研究所と学术交流協定を締結し、継続的に共同研究を進めるとともに、国際学会議やシンポジウムを開催してきた。

2017年は1932年の尹奉吉義挙から85周年にあたる節目の年であったが、折しも独立記念館韓国独立運動史研究所から提案をいただき、12月2日・3日に、同研究所、一橋大学韓国学研究中心、尹奉吉義士共の会、月進会日本支部の共催で「尹奉吉義挙と世界平和運動」のタイトルの下、「尹奉吉義士殉国85周年日・韓共同学会議」を開催した。日韓で著しく評価が分かれる尹奉吉義挙であるが、実は日本では尹奉吉について、そして「尹奉吉上海義挙」＝「上海天長節爆弾事件」についての研究は余り進んでおらず、その事実自体があまり知られていない。日本語で出版された尹奉吉に関する書籍としては、以下の3冊を数えるのみである。

- ①山口隆（1994）『尹奉吉—暗葬の地・金沢から』社会評論社、
- ②山口隆（1998）『4月29日の尹奉吉：上海抗日戦争と韓国独立運動』社会評論社、
- ③金学俊〔著〕河田宏〔監修〕朴淳仁〔訳〕（2010）『評伝尹奉吉—その思想と足跡』彩流社

そこで私たちは、この「よく知られていないが、評価が真っ向から分かれる」できごとについて、あくまで学術的にアプローチし、「東アジア公共の記憶」、ひいては東アジアの相互理解への道筋を探って

みようと考えた。当日のプログラムは以下の通りであった。

2017 年 12 月 2 日（土） 反戦平和運動の表象としての尹奉吉義挙

第 1 主題 世界史的な抵抗運動の観点から見た尹奉吉義挙 …… 田村光彰（元北陸大学教授）

第 2 主題 韓国独立運動史上における尹奉吉義挙 …………… 金度亨（韓国独立運動史研究所）

第 3 主題 尹奉吉義挙に対する国内外における反響 …………… 洪善杓（韓国独立運動史研究所）

第 4 主題 尹奉吉義士の金沢における殉国と解放後の遺骸発掘及び顕彰 … 金祥起（忠南大学教授）

2017 年 12 月 3 日（日） 反戦平和運動の過去と現在そして課題

第 1 主題 1930 年代における鶴彬の反戦平和運動 …………… 勝村誠（立命館大学教授）

第 2 主題 人権弁護士布施辰治と韓国の独立運動家たち …………… 李圭洙（一橋大学教授）

第 3 主題 日本における反戦平和運動の現在的な意味 …………… 森一敏（金沢市議会議員）

第 4 主題 東アジア平和運動と韓国民主体化運動の現代と課題 … 徐勝（元立命館大学教授）

本特集においては、この国際学術会議に提出された発表論文のなかから、金度亨論文と金祥起論文の 2 本を選んで翻訳して収録した。発表論文集には日本語訳が掲載されていたが、その翻訳者は金度亨論文が洪善英（韓日比較文化センター研究委員）、金祥起論文が蔡永姪（清州大学講師）であった。これらの論文はその後に加筆修正されて韓国の学術雑誌で公表されたので、そちらを底本として新たに翻訳し直したが、上記の日本語訳も参考にした。底本の初出は以下の通りである。

金度亨「尹奉吉の思想と独立運動方略」『韓国学論叢』（国民大学校）49 輯, 2018 年 2 月, pp289-319.

金祥起「尹奉吉の殉国と顕揚事業」『韓国近現代史研究』86 輯, 2018 年 9 月, pp.158-182.

翻訳にあたっては、基本的には原文に忠実に直訳を心がけるとともに、日本語史料が韓国語に訳されている部分は可能な限り原史料の叙述を確認して復元した。また、すでに公刊された日本語訳が存在する文献については可能な限りそちらを確認し、原論文の韓国語と日本語訳を照合して翻訳したうえ、注記の出典は日本語訳の方を示すようにした。そのような作業を通じて、事実関係が確認できない部分や、明らかな誤りについては、断りなく削除や修正をした。訳注は [] で表記した。

収録した二論文のうち、金度亨論文は、簡潔にして要領よく尹奉吉の生涯と彼の独立運動思想を整理しており、尹奉吉の人物像を手短に把握することができる。金祥起論文は、義挙後の尹奉吉が日本によってどのように処断されたか、そして金沢で暗葬（秘密裏に遺骸を埋葬すること）された尹奉吉の遺骸はいかにして発見され、その後に金沢において在日朝鮮人と日本人が協力して尹奉吉を顕彰してきた過程が簡潔に紹介されている。訳出にあたった者として、この 2 論文が広く読まれ、東アジア歴史認識問題を考えていく手がかりになることを願うものである。

